

神崎市水源地域振興対策検討 移住者ヒアリングの実施報告

1) ヒアリングの目的

- ・第2回神崎市水源地域振興対策検討委員会にて、住民ワークショップの実施報告を行ったところ、委員から、「水源地域出身の方は、地元の魅力を当たり前と感じてしまう。若い移住者の方がいるので、移住者から魅力などを確認してほしい」と助言をいただいた。
- ・移住者は地域にづくりとって極めて重要な担い手になることから、移住者に対してのヒアリングを実施し、移住者の意見を整理する。

2) ヒアリング実施概要

日 時	令和2年9月17日	令和2年10月1日
対 象 者	カフェ経営者 (A氏)	養鶏農園経営者 (B氏)

3) ヒアリングの進め方及びヒアリング項目

表：ヒアリング調査項目

区分	ヒアリング調査項目
	アンケート・検討委員会及び地域ワークショップ項目
事業概要、移住のきっかけ	活動されている事業の概要
	脊振地域に移住されてきた経緯及びきっかけ
水源地域(脊振町)について ※水源地域：図面参照	移住者から見た、水源地域の満足度及び地域活性化への期待について ※住民アンケート調査結果を用いて説明 ※住民アンケートの問5及び問8
	移住者から見た、水源地域の魅力と課題について※ニュースレターを用いて説明 ※第1回住民ワークショップのテーマ(その1)、水源地域の資源も含む
	地域の現状と課題を踏まえ、魅力的な所にするための工夫や課題の解決方法(地域振興)について※ニュースレターを用いて説明 ※第1回住民ワークショップのテーマ(その2)
	地域の将来像について※ニュースレターを用いて説明 ※第2回住民ワークショップのテーマ(その2)
城原川ダム事業関連地域振興に関して	城原川ダム事業関連地域振興に関する関心事項
	今後の地域活性化への関わり方について ※第2回住民ワークショップのテーマ(その3) ※取組、実施体制
	水源地域への移住・定住促進を図るための支援策

*1) 「水源地域の資源」とは、水源地域における景観・場所・地形・自然環境・文化・施設・史跡・行事(祭事)・その他の総体を指す。

4) ヒアリング結果

区分	ヒアリング調査結果
事業概要、 移住のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・(A氏) 自身の体力づくりのために、<u>不動産が売り出していた500坪の山を買い、2~3年間、造成・伐採しながら、趣味としてシイタケ、リンゴ、ブルーベリーを育てていた。</u>これらを使用した料理で飲食店を開こうと考えた。 ・(A氏) 最初は住めないと思っていたが、<u>久留米市、福岡市、佐賀市まで車で1時間以内、さらに標高650mの澄んだ空気と避暑地ということが決め手となった。</u> ・(B氏) 移住当初は神埼地域に住んでいたが、その後脊振地域に移住した(借家)。耕作放棄地を取得し、平飼いの養鶏場を整備した。<u>近くに民家が無い箇所、少し谷地形で風を受けない箇所、発展性や拡張性がある地域を選んだ。</u> ・(B氏) 養鶏は昔から値段が大きく変わらないため、新規就農で特色を出す方法として、情報発信、価格設定(ハイブランド)とし、すべて直販で実施しようと考えた。<u>時代の流れはインターネットでの直販であり、マーケットとして福岡は近いことは非常に強みがある。</u>
水源地域 (脊振町) について	<p><魅力及び魅力的なところにする工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(A氏) 周辺の主要都市に距離が近い。<u>脊振地域は秘境とされているようだが、意外と市街地に近く、ICまで車で15分の距離である。</u> ・(A氏) 住んでみると、環境や気候が良いことに気づく。特に標高が600m近くだと非日常な環境を味わえるし、<u>人が住むには快適な環境</u>と考えている(エアコンの使用もほとんどない)。 ・(B氏) 脊振の合同庁舎が完成したので、<u>買い物以外は対応可能である。買い物はネットでできるため、不便さは感じていない。学校も小規模特認校であり、特色があり魅力的である。</u> ・(B氏) 移住地としてブランド化を図り、<u>しっかりした政策をすることで非常に魅力的な地域になりえる。空き家に住めるお試し期間、脊振村時代に100円宅地政策が効果的である。20年前にすでに実施したことは稀に見る地域であるため、移住を受け入れる地場がある。</u> ・(B氏) 100円宅地に40代の移住者が50%程度存在する。その方が間に入って新しい人の世話をすることは脊振地域には非常に多い。一長一短で作れないこと、<u>通勤圏であり、アフターコロナであるなかでこの脊振地域で移住対策を行うのであれば、非常に強みのある地域である。</u> <p><課題及び課題の解決方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(A氏) 商店がなく、<u>地区でご飯を食べてお酒が飲める場所がないため、コミュニケーションが生まれる場所</u>が少ない。また、神崎市全体でも飲食店や泊まれる場所が少ない。 ・(A氏) <u>空き家や空き地が流通していない。</u>また、名義が不明な山が多い上、名義が判明したとしても、<u>いくつもの承認を得なければならないため、土地の売買が滞っている。</u>行政がそのような取り組みを支援しないと流通は難しい。 ・(B氏) <u>空き家と移住者とのマッチングが課題</u>である。空き家はあるが、仏壇があつて貸せないなどの理由で、<u>空き家バンクに脊振地域の登録がない。</u>移住者とのマッチングできていない。 ・(B氏) <u>脊振地域で耕作放棄地を購入して農業を展開すると、米作は採算が取れずに厳しい。</u>エミューの放牧、荏胡麻の生産など、複合的な農業の展開が望ましい。 ・(A氏) 周辺に観光資源がなく、道の駅もない。県道46号(中原三瀬線)はバイクやロードバイクのライダーが多く、<u>有名なドライブコースになっており、足止めスポットがあるとよい。</u> ・(A氏) <u>道路の幅員が狭い、店の場所がわかりにくいと訪問者によく言われる。</u> <p><将来像></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(B氏) 地域活性化の将来像としては、<u>子育て環境を充実させることがあげられる。</u> ・(B氏) 脊振地域の活性化となれば林業資源の活用など、<u>地域資源を使うことが好ましいが、相当力強い動きが無いと難しい。</u>例えば、森林資源の活用として、移住者は薪ストーブ、ペレットの活用を支援し、林業の活性化を図ることも考えられる。
城原川ダム事業 関連地域振興 に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・(A氏) 当該地域は水源地域から外れているため、<u>ダム事業の関心事は特にない。</u> ・(B氏) 脊振地域に移住する前は、<u>ダムの堤体地区に長く住んでいたが、今は上流域に住んでいる。</u>ダム完成に伴い栄えた地域の例があればよいが、<u>ダム完成後は防災の機能は高まるが、人口減少となる地域が多い。</u> ・(B氏) 付け替え道路ができて、道の駅ができて直売所ができれば、<u>直売の機会が増える。</u>現在、道の駅などが少なく、<u>地域外の直売に販売したいが人手が足りないのが難しい(現在、卵を高取山公園直売所、アスタラピスタ 吉野ヶ里店に卸している)。</u>